



早朝の通学生で込み合う車内



県立三本木農業高等学校
校長 斗沢 栄一 さん
EIICHI TOZAWA
(本協議会 副会長)

電車存続のために 新しいイベントを 企画してみても

85年間地域の人たちの交通手段として、特に高校生の通学の足として大いに貢献してきたと思います。

本校は、現在の三本木高校がある西小稲の地から、昭和44年10月に高清水に移転しました。

ある日、三沢から電車に乗り、午後7時30分ごろに三農高前駅に着いたら、部活動を終わった生徒が、自転車と一緒に乗り込んできました。たぶん彼らは朝晴れていて、下校時の雨でやむなく電車に乗り込んできたものと思われれます。このときのことを今でも忘れません。

昭和45年当時の生徒が電車を利用していた割合は全体の41%、現在は25%の生徒が利用するにとどまっています。現在は、自家用車が1家族に1台以上が当たり前となり、保護者が通勤の途中に送り迎えをすることが多くなり、電車通学が少なくなってきました。

電車の存続のために、新しいイベントなどを企画してみてもいいかがでしょうか。例えば、風鈴電車や鈴虫電車、レールオーナーなどを実施することにより、乗ってみよう、オーナーになりたいという電車に対する興味などが生まれるものと思います。



高校生でにぎわう十和田市駅改札口



県立三沢商業高等学校
校長 竹園 正敏 さん
MASATOSHI TAKESONO
(本協議会 理事)

電車は通学生の生命線 生徒にやさしい 割安な交通手段の 提供を

十和田観光電鉄株式会社の電車の14.7kmに及ぶ路線は、馬車道に沿って敷設されたと聞いております。大正の時代から85年にわたり、人員や物資の輸送手段として地域を支えてきた、重要な交通機関です。

現在、十和田観光電鉄沿線には多くの学校があります。そして、多くの生徒が電車を利用して通学しています。特に、移動手段の限られた高校生たちにとって、天候に左右されず、交通渋滞の影響を受けない電車は、なくてはならないものです。そればかりか、電車があるからこそ、十和田・三沢地区の高校生が、三本木高校、三本木農業高校、十和田工業高校、三沢商業高校、三沢高校を自由に選択できているといえます。自動車による移動が中心の現代ではあります。地元の高校にとっては「電車は通学生の生命線」といえると思います。

各学校の学級数が減少し、十和田観光電鉄の絶対的な利用者は減少しています。しかし、本校の場合、十和田市からの入学者が増加傾向にあり、彼らが希望の商業高校に通学できるのも電車があるということが前提にあると思います。

また、三本木高校に附属中学校ができたことにより、三沢地区の生徒が電車を使って通学することも考えられます。沿線の学校の存続にかかわることなので、現在の機能を維持していただきたいと思っています。

十和田観光電鉄の運賃がかなり割高だという話をよく耳にします。なくては困る電車ですが、自家用車で送り迎えした方が経済的なので電車の使用を控えているという家庭も多いようです。「生徒にやさしい割安な交通手段」として運賃を低く抑えることを検討していただきたいと思っています。